



特集

同窓会設立10周年記念パーティー P3

・新卒業生への祝辞	P1	・気になる言葉	P10	・国際交流	P20
・連携総合ゼミ	P5	・同窓生の疑問・質問に答えます	P11	・大学TOPIC	P21
・卒業後に取った資格	P6	・理学療法学会参加報告	P12	・ご活躍されている同窓生	P22
・学科別同窓会のお知らせ	P7	・同窓生は今	P13	・卒業生の就職状況	P23
同窓会アンケート		・学科近況	P15	・学友会活動報告	P24
・AT・SW連携研修会開催	P8	・研究室Now!	P18	伍桃祭開催報告	
国家試験出陣式		・クラブハウス竣工	P19	・強化指定クラブ紹介	P25
・新潟県人会佐渡支部通信	P9	第14回新潟医療福祉学会学術集会		・大学院案内	P27



新潟医療福祉大学学長
山本 正治

本学卒業生として“所属と愛情の欲求”を満たすには?

11期生のみなさん卒業おめでとう。本学は平成13年4月に開設され、平成17年3月に初めて卒業生を送り出しました。当時2学部5学科で301名でした。そして10年後の平成26年4月の時点で卒業生数は学部の4,699名、大学院180名で、総勢約4,900名になりました。私が学長に就任した平成22年4月、今後10年間に在学生5,000名の大学にすることを将来計画で約束し、学科の新設や学科定員増をほぼ毎年進めています。卒業生がこれから急増することは確実です。今後本学卒業生による地域社会的活動が益々期待される一方、社会的責任も今まで以上に課されます。皆さまには本学OB・OGとして後に続く後輩をあらゆる局面で導いて欲しいと願っています。

さて本学初代の卒業生はいま30代半ばに達しています。保健医療福祉スポーツ分野のプロフェッショナルとして高い評価を得て、そろそろ中堅管理職として活躍を始めた方もおられるのではないでしょうか。これからの皆さまの歩みについて私は心理学者マズローの欲求段階説と自分自身の70年にわたる人生経験を基に、勝手な予想をしてみました。

最初にマズローの欲求段階説について復習しておきます。人間として生きるために最低限の欲求は食欲、睡眠欲などの生物個体として本来的に備わったものです(第1段階:生理的欲求)。さらに自分や家族の安全・安心の生活を求めます(第2段階:安全欲求)。生理的欲求、安全の欲求が満たされた時、人間として他者との関わりを求めます。自分の居場所をどこかに見つけ、その中で周りの人からの愛情を受けたいと思います(第3段階:所属と愛情の欲求)。次に他人から

自分の存在や価値を認めて欲しいと思うはずです(第4段階:承認の欲求)。承認の欲求が認められた時、人間のさらなる欲求として自分の可能性を最大限に發揮し、自分らしく生きたい欲求が出てきます(第5段階:自己実現の欲求)。

マズローの欲求段階説は仮説に過ぎませんが、私の人生と照らし合わせた時は、良く合致しています。因みに私は70歳にして第5段階を模索中であります。

皆さまは現在第2段階をクリアしつつあると私は勝手に想像しています。これから第3段階、即ち所属と愛情の欲求段階に入るのではないかでしょうか。自分の居場所をどこかに見つけ、その中で周りの人からの愛情を受けたいと思った時、どうすべきなのでしょうか。自分が働く職場での活躍に加えて、地域社会との関わりを今以上に持っていた方が大事だと思います。例えば学会・研究会活動、ボランティア活動、趣味の同好会、同窓会活動等々に参加することです。私は皆さまと同じ年頃、学会・研究会活動と同窓会活動を精力的にこなし、そこに自分の居場所を見つけました。

タイトルに掲げた「本学卒業生として“所属と愛情の欲求”を満たすには?」の問い合わせに対して私なりの考え方を示します。学長としての願望も入っていますが、「卒後10年経った時点で、大学とのつながりを再確認し、かつ卒業生同士が地域社会の中で職種間連携を深めることで“所属と愛情の欲求”を満たす。」を解説します。皆さまの活動に対して惜しみない支援を致します。本学はまだ若く成長期の大学ですが、これから刻む歴史と伝統は、皆さまの“愛校心”によって形作られるものと確信しているからです。

新卒業生へ

Congratulatory address



卒業を祝して

国際交流・強化スポーツ担当副学長
渡辺 敏彦

平成27年3月に卒業する11期生の皆さん、卒業おめでとうございます。大学で4年間学んだ知識・技術を駆使して社会人一年生として大活躍してくれることを確信しております。この機会に、サミエル・ウルマン(詩人)の「青春」という詩の一節を皆さんに紹介してお祝いの言葉を致します。「青春とは人生のある期間のことを示すのではなく、心のありかたをいうのだ。(中略)ときには、二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。年を重ねただけでは老いない。理想を失うとき初めて老いる。」即ち、挑戦する勇気と冒險心を失えば、それは青春とは言えないという意味です。皆さんには、入学時のキラキラした瞳と挑戦する気持ちを社会人としても常に持ち続け、人生を青春して頂きたいと思います。



卒業生へ

教育担当副学長
江原 義弘

おめでとう。いよいよ晴れの卒業式を迎えることになりました。皆さんにはいま晴れがましい気持ちでいっぱいでしょう。これというのも皆さんのが4年間勉学を積み重ね、一歩一歩着実に前進してきたからこそです。ご家族の支えや友人の応援もありましたが、やはり一番大きなものは皆さん自身の努力だったでしょう。こうして社会に巣立っていく皆さんに敬意を表します。不安はあると思いますが、本学の学生の良さは、まじめにこつこつと足元を固めて進んでいくことです。その良さを十二分に生かしてください。また、皆さんのおわりには既に本学から巣立って社会で活躍している先輩が4,000名もいます。転びそうなったら、遠慮せずに先輩に頼ってください。教員もいつでも応援しています。先輩・教員に助言を求めてください。きっと道が開けると思います。そうしていつか自分も後輩から頼られる先輩になっていきます。

教員として嬉しいのは、学会などで卒業生から声をかけられたり、卒業生が企画した勉強会などに講師として呼ばれることがあります。大学とのつながりを大切にして誰からも認められる優れたQOLサポーターになってください。



卒業生へ

地域連携担当副学長/社会福祉学部長
丸田 秋男

11期生の皆さん卒業おめでとうございます。新潟医療福祉大学で学んだことを誇りにして存分に活躍ください。皆さんは、これから保健・医療・福祉・スポーツ等の第一線の現場で働くときに、自らの評価の基準をどこに求めるのでしょうか。ケースワークの母と呼ばれたメアリー・リッチモンド(1861-1928)は、専門職にとって最高の評価基準はクライエントや利用者等(以下「対象者」という)の自己実現にあるとしています。また、それは対象者に対する「無条件の敬意」と「温かい人間的な関心」を持つことによってのみ得られるといっています。常に対象者の「生命の価値」、「人間の尊厳」あるいは「社会的正義」とはなにかについて追求し続け、対象者との互恵関係を通して優れたQOLサポーターを目指してください。皆さん、共生社会や21世紀型コミュニティの実現に向けて社会に貢献できる専門職として大きく成長されることを心から期待しています。

No.11 春 2015.3



理学療法学科

輝く未来は
今日から始まる

作業療法学科

輪

わき大切に

言語聴覚学科

どんな時でも、
みなさんを
応援します！

義肢装具自立支援学科

走

日本の業界をけん引する
専門私になって下さい！

臨床技術学科

日々新面目
あるべし

健康栄養学科

人間は希望と
創造の生き物である。
(米国 トム・クランシー)
常に前向きな姿勢
を大切に！

健康スポーツ学科

祝
贈る言葉
健全な身体に
健全な心
たくましい身体と
やさしい心

看護学科

寄り添う

社会福祉学科

志を高く!!

医療情報管理学科

今日という日は、
残りの人生の
最初の日である。
チャーチス・
ティードリッヒ



受付での一コマ



齊藤会長開会の挨拶



丸田副学長開会の挨拶



同窓会設立10周年記念パーティー

10th Anniversary

10周年記念パーティーを開催して

同窓会会長 齊藤 公二
(健康栄養学科2005年卒)

平成26年10月25日(土)チサンホテル&コンファレンスセンターにて「同窓会設立10周年記念パーティー」が開催されました。前回の5周年記念交流会の参加者を上回る130名の方に参加していただき、盛大に開催することができました。1期生が卒業して10年が経ち、新しい学部、学科が増え、新たな校舎が立ち、いろいろな変化が大学にもありました。しかしながら、今回お会いした先生方と話すと大学の理念やポリシーが変わっていなかつたこと、様々な時代の

変化がありながらも基本姿勢は変わらず、且つ新しいことにもチャレンジする大学の姿は同窓生にとって帰るべきところがあると安心や嬉しさを感じました。これから新潟医療福祉大学の益々の発展がうかがえる時間でもありました。

同窓生も11期生を含めると5,000名を超える大所帯となります。同窓会としてもこれからの時代に合った活動や学生支援などを引き続きおこなっていきます。これからも同窓会へのご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。



司会の嶋見さん



歓談の一コマ

Smile Gallery



よさこい演舞



ダンス部演技



クイズの一コマ



ダンス部演技



スライドショー



山口副会長閉会挨拶



参加した在学生の声



ダンス部部長 今井 利香さん
(医療情報管理学科3年)

この度は、新潟医療福祉大学同窓会設立10周年記念パーティーにお招きいただき誠にありがとうございました。この歴史ある会でパフォーマンスをやらせていただけたことを大変光栄に思います。皆様が温かい目で見てくださったので、私達も楽しんで踊ることができました。今後ともよろしくお願い致します。



よさこい部舞桃会部長 室橋 里奈さん
(作業療法学科2年)

新潟総踊りで「想人賞」を受賞した年に、この同窓会10周年パーティーに初代部長、OB・OGの皆様に直接ご報告できたことを、嬉しく思っております。皆様からの温かい拍手やお声掛けを頂き、部員一同改めてよさこいの楽しさを感じることができました。この度はパーティーにご招待頂きありがとうございました。



連携総合ゼミ講師派遣事業

派遣報告

平成26年8月5日(火)新潟医療福祉大学の特徴的な授業の一つ「連携総合ゼミ」のオリエンテーションが行われました。この授業は一つのテーマについて各学科から学科の特徴を活かした意見を持ち寄りアプローチする「連携」が鍵となっています。今回は多くの卒業生が在籍している医療法人社団白美会白根大通病院から6名の同窓生から講師として来ていただき、実際の現場の声を学生に伝えていただきました。学生も先輩の生の声を聞くことができ、非常に満足していました。協力いただいた白根大通病院の皆様には感謝申し上げます。

同窓会では講師派遣の事業も含め「学生支援」を積極的に行ってています。在学生の生き生きとした表情をみると新たな発見や元気をもらえるのではないでしょうか。

これからも同窓会として様々な支援をしていきたいと思います。



作業療法士

高野 葵さん
(作業療法学科2011年卒)

卒業生として大学での発表機会を持つことができ貴重な経験になりました。他学科の学生にも伝わる表現をすることは難しく苦労しましたが、今後もこのような機会が広がり同窓生と学生とのつながりが充実するきっかけになればよいと思います。



理学療法士

山川 朋芳さん
(理学療法学科2008年卒)

発表の準備において改めて一人の患者様に様々なスタッフが係っているのだと再認識し、私自身他職種への理解が深まり良い経験になりました。受講された方には、実際に臨床の現場で働くイメージができ、卒業後に少しでも参考になればと思います。



言語聴覚士

渡辺 いずみさん
(言語聴覚学科2009年卒)

今回、学生の皆さんに少しでも現場の取り組みについてお伝えできたらという思いで発表させて頂きました。発表準備を通して、お互いの専門性を尊重し理解する事ができ、日々の業務を見つめ直す良い機会となりました。



理学療法士

吉沢 圭亮さん
(理学療法学科2010年卒)

業務を抱えての準備は大変でしたが、自分自身の業務を振り返る良いきっかけとなりました。また、多職種の人柄や考えに触れ、自己の視野を広げることもできました。このような機会を頂けたことに深く感謝しています。



管理栄養士

吉沢 舞さん(旧姓:内藤)
(健康栄養学科2010年卒)

「連携とは何か」を言葉にし、まとめていくのは思っていたよりも難航しました。連日の話し合いで様々な考えに触れることで自分なりの考えを深め、チームとしての考えも発表することができ、良い経験となりました。



言語聴覚士

山口 万里絵さん
(言語聴覚学科2011年卒)

講義を通して、自分達の業務を振り返ることができ、医療の現場ではたくさんの職種が係っていることを感じることができたと共に、他職種との連携の大切さを改めて感じることができ、良い機会となりました。

卒業後に取った資格

3学会合同呼吸療法認定士について

医療法人社団 愛友会 津田沼中央総合病院 勤務

田中 翔太郎さん(理学療法学科2007年卒)



3学会合同呼吸療法認定士は、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会によって創設された資格です。臨床工学技士、看護師、准看護師、理学療法士(近年作業療法士も追加されました)が対象で、呼吸療法を習熟した医療チームの構成要員を養成、かつそのレベルの向上を図ることなどを目的としています。

資格取得の流れは、まずこの委員会が認めている学会等に参加し、その後講習会を受講し、筆記試験に合格すると取得できます。試験には、呼吸療法に関する肺機能の解剖・生理や、呼吸不全の病態、酸素療法や呼吸理学療法及び人工呼吸器など幅広い分野の知識が必要で、細部までの理解が求められています。

現在、呼吸療法士の配置で診療報酬の加算が算定できるわけではなく、呼吸リハの取り組みも施設によってばらつきがあ

るのが実状です。しかしこの資格取得は、呼吸療法の目的、理論、治療の実際などについて改めて専門知識を学び、呼吸療法チームにおける一員としてその能力を高める良い機会だと私は思います。

当院では呼吸療法認定士を取得したセラピストが中心となり、科内及び他科にむけての研修を開催したり、他科に呼吸関連の研修を依頼するなど、チームでの呼吸ケアがより効果的に行えるよう努めています。小さな動きではありますが、このような活動を通して患者さんに提供する医療の質を高めていくことが必要だと考えています。

興味を持たれた方は、『3学会合同呼吸療法認定士』で検索してみてください。



介護支援専門員

社会福祉法人 いじみの福社会 陽だまり苑 勤務

若月 恵さん(社会福祉学科2005年卒)



取得した経緯

社会福祉士として陽だまり苑で勤務し、特別養護老人ホームやショートステイ、デイサービス等いろいろな部所でお客様と関わせていただき、お客様や職員から多くのことを学びました。

その中で、もっとお客様のことを知りたい、自分の知識や技術をもっと高めていきたいと思うようになりました。

総合的にお客様をご支援し、お客様の幸せのために働きたいと思い介護支援専門員の資格を取得しました。

取得に際して苦労したこと

仕事をしながらの資格取得であったため、経験の中から得た知識も多くありました。

しかし、介護支援専門員実務研修受講時、アセスメントやケアプラン立案の大変さを実感しました。

また、自分にできるのだろうかという不安も日に日に大きくなり、挫折しそうになりましたが、陽だまり苑の職員の方や研修で出

会った方に励まされ乗り越えることができました。

介護支援専門員の資格は試験だけでなく実務研修もあり、なかなか大変ですが、周りの方の支えに気付くことができ、より自分が成長できると思います。

取得して良かったこと

介護支援専門員の仕事は自分が担当しているご本人・ご家族の生活全体を知り、支援していく必要があります。

多くの情報を集め、その方々に合わせて対応しなければならないため、大変と思うこともありますが、「こんなに元気になった」「担当してもらってよかったです」とおっしゃってもらったり、すてきな笑顔を見ることができた時は私自身も本当に幸せな気持ちになります。



学科別同窓会のお知らせ

社会福祉学科1期生同窓会 開催決定

日 時 平成27年6月6日(土)

午後6時30分開場 午後7時00分開宴 午後9時00分頃閉会予定

会 場 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟

〒950-911 新潟県新潟市中央区笠口1-1 Tel:025-240-2111

JR新潟駅南口直結 徒歩1分

会 費 お一人 6,000円 ※当日徴収いたします。

※お子様同伴での出席も可能です。

義肢装具自立支援学科同窓会を企画しています

平成27年度中に義肢装具自立支援学科同窓会を開催する準備をしております。開催時期・場所は未定ですが、多くの同窓生に参加を呼び掛けているので、皆さんの周りの同窓生にお声掛けをお願いします。詳細は決まり次第ご連絡いたします。また、同窓会では同窓会開催のサポートをしています。同窓会を開催したいけどどうしたらよいかわからない。みんなに案内を出したいけど連絡先が変更されていて連絡が取れない。など皆さんが分からないことを同窓会ではお手伝いいたします。皆さんからの連絡をお待ちしています。



連絡先 新潟医療福祉大学 同窓会支援室 Tel:025-257-4455 E-mail:dosokai@nuhw.ac.jp

同窓会アンケート

以下のアンケートに答えて**ボールペンをGET**しよう。

- ① 同窓会のホームページを見たことがありますか?
- ② 同窓会のフェイスブックを見たことがありますか? 「いいね」をお願いします
- ③ 伍桃に載せてほしい記事を教えてください。(様々な内容を受け付けます。)
- ④ 同窓会にやってほしい研修会・イベントを教えてください。(同期会開催やスポーツイベントなどジャンルは問いません。)
- ⑤ 同窓生に一言お願いします。

以上の質問にすべて答えていただいた方の中から抽選で10名様に新潟医療福祉大学名が入ったボールペンをプレゼントいたします。
応募方法はEmail (dosokai@nuhw.ac.jp) に①~⑤の質問的回答と卒業学科・住所・氏名・連絡先を記載して送信してください。
アンケートの回答は次回「伍桃No.11秋号」に掲載させていただきます。多くの方々からの回答をお待ちしております。

新潟医療福祉大学同窓会

AT・SW連携研修会開催決定

義肢装具自立支援学科

社会福祉学科

同窓会では昨年に引き続き、同窓生の交流と卒後教育の場を充実する目的で下記の研修会を開催することとなりました。今回は義肢装具自立支援学科及び社会福祉学科の同窓生を中心に企画を進めてまいります。3回目の開催となり、毎年充実した会となっております。同窓生役員を中心によりよい内容にするべく準備しておりますので、多くの皆様に参加いただければと思います。

ご多用中の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますよう重ねてお願い申し上げます。同窓会役員一同心よりお待ちしております。

また、「こんなことをしてほしい」、「私の学科でもやってほしい」などご意見・ご要望がありましたら同窓会支援室までご連絡ください。

日時:平成27年11月28日(土)14:00~19:30(予定)
会場:未定

※詳細は後日お知らせ致します。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 全体会 | 2. 分科会 | 3. 懇親会 |
| ◆連携発表 | ◆AT分科会 | ◆SW分科会 |



国家試験 出陣式

》合格祈願鉛筆贈呈



毎年国家試験を受験する在学生の皆さんへ同窓会より合格祈願鉛筆を贈呈しています。今年も健康スポーツ学科と医療情報管理学科にも目標が叶うように「大願成就祈願鉛筆」を贈呈いたします。また、今年から新たに臨床技術学科の「臨床検査技師」、「臨床工学技士」の国家資格受験が加わり、新たな分野のつながりができます。同窓会もささやかではあります但在学生の頑張りを応援しています。

国家試験を受験する方は合格を目指して、社会に出て頑張る方々には夢や目標が叶うように同窓生からの願いが込められています。写真は社会福祉学科の激励会の様子です。学科の特色が出た素晴らしい会でした。皆さんそれぞれの目標に向かって頑張ってください。



現在、新潟医療福祉大学では在学生が長野・福島・佐渡(支部)・山形の4つの県人会を立ち上げ活動しております。その中でも特に佐渡支部は活発に活動をおこなっています。その活動の一つであるメルマガ「佐渡支部通信」の中で同窓生が採り上げられましたので紹介します。

新潟県人会・ 頑張っています! 佐渡出身の先輩! 佐渡支部通信



私は、現在三条市立栄北小学校の養護教諭として働いています。働き始めて9ヶ月が経過し、ようやく仕事にも慣れてきたところです。最初は、学生と社会人の違いに戸惑い、体験すること全てが初めてだったため、仕事の楽しさを感じる余裕はありませんでした。人間関係に悩むこともたくさんあり、「社会は厳しいな~」と感じる毎日でした。しかし、時間が経ち、子どもたちと一緒に体を動かしたり、指導をしたりする場面が増えてくると、仕事のやりがいを感じるようになり、今では充実した日々を過ごすことができています。そんな中、今でも佐渡支部のことを思い出します。私も学生の頃、看護師の国家試験対策に励む中、癒しを求めて佐渡支部に参加していました。佐渡支部は、他の県人会と比べて非常に集まりがよく、佐渡島民の絆の強さを感じるものでした。卒業した今でも、佐渡支部はどんな活動をしているのかな、人数はどれくらい集まっているのかな、と気になることがあります。それほど、私にとって、佐渡支部は印象深いものでした。

佐渡の人たちは温かく、触れ合うことで癒されるので、皆さんもぜひ、佐渡県人会に積極的に参加してみてください。佐渡出身の方だけでなく、佐渡に興味がある人も来て交流できるとても良い会になると思います。社会人になると、自由に遊べる時間も少なくなるので、学生のうちにしかできないことをして精一杯楽しんでください。

◆年末年始はほとんどの人が佐渡へ帰省すると思います。私も佐渡で新年を迎え、初詣は真野宮に行く予定です。皆さん、佐渡でよい年を迎えてください。

今回「頑張っています! 佐渡出身の先輩!」を寄稿していただいた深谷友加里さんをご紹介します。深谷さんは、旧相川・金泉の出身で昨年度看護学科を卒業されました。新潟県の教員採用検査を受検し、高倍率を見事に突破し、4月から三条市立栄北小学校の養護教諭として働いておられます。養護教諭の仕事は大変だけど、とてもやりがいがあり楽しいとおっしゃっていました。

また、在学中は県人会・佐渡支部の幹事として積極的に参加してもらいました。今回、寄稿をお願いしたときも「県人会・佐渡支部の人はたくさん集まっていますか?」と佐渡支部の活動を大変気にかけておられました。



深谷 友加里さん
(看護学科2014年卒)

気になる言葉

今回は最近注目されたり気になるワードを取り上げてみました。

様々な資格やシステムが出てきています。関連する方は注目いただきたいと思います。

管理栄養士編

在宅訪問管理栄養士

○目的

在宅療養者が今後ますます増えていく中、在宅での栄養管理は必須であります。在宅訪問栄養食事指導を行える管理栄養士は大変少ないのが現状です。そこで、特定分野認定「在宅訪問管理栄養士」研修では、在宅医療と係わる多職種と連携が取れ、在宅療養者の疾患・病状・栄養状態に適した栄養食事指導(支援)ができる管理栄養士を育成致します。

在宅訪問栄養食事指導を提供することで、「療養者が在宅での生活を安全かつ快適に継続でき、さらにQOLが向上する」そのような指導(支援)技術を備えた管理栄養士を育成する実践研修です。この研修により、在宅で実践的な栄養食事指導が提供できる「在宅訪問管理栄養士」を増やすことを目的としております。

○認定資格者

1. 公益社団法人日本栄養士会の会員であり、全国在宅訪問栄養食事指導研究会の正会員で「管理栄養士」であること。
2. 管理栄養士登録から5年以上経過し、病院・診療所・高齢者施設等において管理栄養士として従事した日数が通算で900日(週休2日と仮定して、3年6ヶ月以上の期間が必要です)以上の者。
3. 学習プログラムの所定の内容を全て修了し、所定の認定試験に合格後、在宅訪問栄養食事指導実施・実践症例検討報告レポート審査を受け合格した者。

在宅訪問管理栄養士 インターネットカレッジの受講と認定の流れについては日本在宅栄養管理学会HPをご確認ください。

日本在宅栄養管理学会HPより

<http://www.gakusai.co.jp/houeiken/nintei.htm>

理学療法士編

地域包括ケアシステム

○地域包括ケアシステムに関する推進リーダー制度

現在、日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。

65歳以上の人口が、現在3,000万人を超え(国民の約4人に1人)、2042年にピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。このような状況の中、団塊の世代(約800万人)が75歳以上となる2025年(平成37年)以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

そこで国は、「地域包括ケアシステム」の構築を実現することによって、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的にできるまちづくりを実現し、重度な要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける姿を目指しています。

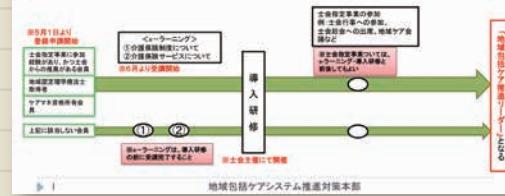
上記の状況を鑑み、公益社団法人日本理学療法士協会ではリーダー育成事業を開始しています。

「地域包括ケア推進リーダー」

エントリー

履修要件(地域包括ケア推進リーダーの場合)

【地域包括ケア推進リーダー】
 ①e-ラーニングの受講
 ②導入研修の受講
 ③導入研修事務の参加
 上記3項目を修了することで、【推進リーダー】としての資格が付与されます。
 ※新規入会者プログラムも修了の方でも目指せます。
 ※【推進リーダー】の資格は、生涯学習の資格として、40ポイントが付与されます。
 ※会員によって、要件が異なります(下図参照)。

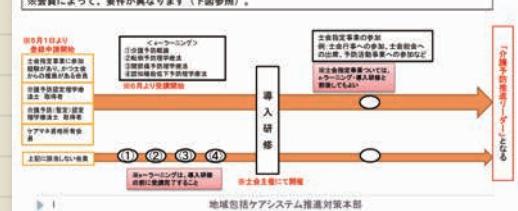


「介護予防推進リーダー」

エントリー

履修要件(介護予防推進リーダーの場合)

【介護予防推進リーダー】
 ①e-ラーニングの受講
 ②導入研修の受講
 ③導入研修事務の参加
 上記3項目を修了することで、【推進リーダー】としての資格が付与されます。
 ※新規入会者プログラムも修了の方でも目指せます。
 ※【推進リーダー】の資格は、生涯学習の資格として、40ポイントが付与されます。
 ※会員によって、要件が異なります(下図参照)。



公益社団法人日本理学療法士協会HPより

http://www.japanpt.or.jp/lifelonglearning/jinzai_ikusei/edu_houkatsu/



同窓生の疑問・質問に答えます!

このコーナーは同窓生の皆さんに日頃疑問に思っていることや悩んでいることを同窓会誌「伍桃」を通じて解決しようというコーナーです。1回目は子育ての悩みを抱えている方々からの質問です。回答は看護学科の先生方にご協力いただきました。

Q トイレトレーニングは、その子によってだとは思うのですが、始めるタイミングはいつがいいですか？

A その子どもの発達の状況にもよりますが自分の意思を伝えられるようになる時期を考えると2歳以降になるでしょう。

Q 冬場の嘔吐、すぐに病院に行ったほうがいいですか？どのタイミングでの受診がベストですか？受診時の心得は？

A 冬場に限らず嘔吐した場合は、吐物、吐き方、随伴症状（発熱、腹痛、下痢などの有無）、食べた食事内容などを確認します。冬場に多いのはロタウィルスやノロウィルスなどによる感染症ですから周囲で流行しているようであればすぐに受診したほうがよいと思います。その場合、吐物や下痢便など携帯などで写真に撮り、受診時に医師に診てもらうと診断の参考になります。

Q だいたい休日や夜間に高熱が出たり体調を崩してしまいます。特に年末年始の休診が続くときなど、救急を受診したほうがいい目安があれば教えてください。

A 子どもの救急受診をお勧めしたいのは必ず小児科医がいるかどうかを電話などで確認することです。子どもの病気は小児科医に見てもらうようにしてください。当番医が小児科医でない場合は救急外来で見てもらった後でも必ず次の日に小児科医を受診してください。内科医ではわからないことがたくさんあります。

Q 蒙古斑、背中の異所性蒙古斑?がかなり広範囲にあります。これは成長に伴い消えるのでしょうか？

A 蒙古斑は小学校入学前までに消えることが多いですが臀部以外のものは長引くものもあります。成人になっても残っている場合もあります。気になる場合は現在ではレーザー治療などの方法があります。



いかがでしたでしょうか。必ずしも個別に当てはまるとは限りませんが、参考にしてみてください。このように新潟医療福祉大学にはそれぞれの特徴を持ったスペシャリストな先生がたくさんいます。疑問質問がありましたら同窓会支援室(dosokai@nuhw.ac.jp)まで連絡をください。ジャンルは問いませんが必ずしも回答できるとは限りませんのでご了承ください。

f 「いいね」を100まで増やそう あと20!!

同窓会ではFacebookを運営しています。
同窓会活動や大学での出来事を報告しています。また、同窓会の告知などにも活用できますので利用してください。もちろん皆さんからの書き込みも大歓迎です。
また、同窓会Facebookでは「いいね」を100まで増やしたいと思います。皆さんの協力をお願いします。



第1回日本基礎理学療法学会学術集会・日本基礎理学療法学会第4回学術大会参加報告

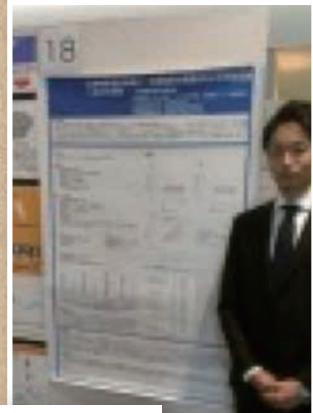
平成26年11月15日(土)・16日(日)の二日間にわたり、第1回日本基礎理学療法学会学術集会・日本基礎理学療法学会第4回学術大会が名古屋学院大学(愛知)で開催され、本学理学療法学科から多くの教員と大学院生そして4年生が参加しました。

この学会は、理学療法の中でも「基礎」と呼ばれる分野の学会で、マウスの実験からヒトの脳活動、動作分析まで理学療法の根幹を成す研究が多く発表されています。

今回の学会のテーマが「理学療法と科学のインテグレーション」であり、学会の中で教育講演やシンポジウムなど非常に有意義な時間となりました。また、「足部の解剖学とバイオメカニクスのインテグレーション」というシンポジウムでは本学科助教の江玉睦明先生が講演されました。学会のシンポジウム「予防の理学療法－運動による脳機能変化と予防」では日本学術振興会特別研究員であり本学健康科学部に所属する松井崇先生もシンポジストとして登壇し、「脳内糖代謝の運動適応：認知予備能を高めるための新たな標的」の題目で発表されました。



拝野 紗生子さん



加藤 拓哉さん



中川 弘毅さん

1. 中川弘毅(4年:田巻ゼミ)

「低頻度電気刺激誘発性筋収縮が不動初期の筋毛細血管の形態に及ぼす影響」

2. 拝野紗生子(4年:田巻ゼミ)

「不動初期の下肢骨格筋鍼内筋線維の形態に及ぼす低頻度電気刺激誘発性筋収縮の影響」

3. 加藤拓哉(4年:大西ゼミ)

「末梢神経電気刺激が一次運動野の興奮性および抑制回路に及ぼす影響」

4. 佐々木亮樹(4年:大西ゼミ)

「一次運動野および一次体性感覚野に対する
Cathodal tDCSが短潜時求心性抑制および短間隔皮質内抑制に及ぼす影響」

同窓生は今

誇りと責任

Q1:勤務先について紹介してください。また、仕事内容について教えてください。

私は現在、警視庁城東警察署に勤務しております。場所は東京都の江東区で、昔からの人情味溢れる下町から東京湾沿岸の新興工業地帯まで多くのスポットが管内にはあります。また、東京スカイツリーが管内からは一眺出来たりと大変魅力ある街です。そこで私は主に交番の勤務員として、分かりやすく言うと街のお巡りさんをしています。社会人1年目、頑張ってます!

Q2:学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか？

私は在学時、健康スポーツ学科部活動は陸上競技部でした。やはり最も印象に残っているのは、そこでの活動です。素晴らしい指導者、最高の先輩、同期、後輩に囲まれた4年間がありました。特に4年時の北信越インカレの男女アベックでの総合優勝は一生の財産です。最上級生として連覇のプレッシャーがありましたが苦楽を共にしてきた仲間と勝ち取ったあの喜びが今でも忘れられません。

Q3:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

大学時代の経験は社会人になった現在大いに役立っています。4年間勉学、部活等

警視庁城東警察署 勤務

小林 聖弥さん(健康スポーツ学科2014年卒)



で多くの方々に出会い、多くのことを経験させて頂きました。そのなかで培われた人間力というのは、仕事柄多くの方と関わる機会が多い現在、大変役に立っております。お陰さまで楽しく仕事に打ち込んでいます。また、「健スボ、陸上競技部の同期も頑張ってるんだ。」と思うとそれだけで大きな支えとなっています。

Q4:今後の夢や目標を教えてください。

目標は老若男女誰からも信頼される、存在だけで安心感を与えられるような器の大きい警察官です。現在の夢は、来たる2020年開催予定の東京オリンピックに従事することです。

Q5:最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。

私は勤務地こそ東京ですが、私の中にはいつも新潟があります。新潟医療福祉大学OBであることに大変誇りを感じます。充実した4年間を送ることが出来たのも周り方々のおかげであり、恩返しのつもりでこれからも一生懸命頑張ります!在学生にも今しか出来ないことに熱中して欲しいですし、OBとして全力で応援しています。後輩達の活躍に期待しております。

同窓生は今

転勤族だからこそ人と自ら関わっていくようにする

Q1:勤務先について紹介してください。また、仕事内容について教えてください。

仕事内容:障がい者の相談(主に、自立支援医療やサービスの申請や利用の為の相談、障がい者手帳制度の申請やサービスの説明)、自立支援医療(精神医療)や精神障がい者保健福祉手帳の申請書類の保健所への進達事務、自立支援協議会の事務など。

Q2:学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか？

絞り切るのが難しいです。疲れを知らなかったので、夜中仲間と遊んで、寝ずにそのまま講義に出ていたこと。サークル仲間と佐渡にキャンプに行ったり、ボード合宿したりしたこと。あと、今でもみんなで集まれば話題にでますが、櫻井先生の催眠療法?か何かの講義で、実際に催眠術をかけられそうになったことです。

Q3:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

大変影響していると思います。学生当時、精神保健福祉分野には携わらないと思っていましたが、家族から「資格だけは取っておくべき」と言われ、精神保健福祉士コースへ進み、4年次の実習先であった精神科病院にそのまま就職しました。現在も、横手市で精神保健福祉に携わっていること自体が不思議ですが、ご縁があったのだと思います。

Q4:今後の夢や目標を教えてください。

転勤族になるので、色々な地域に数年毎に移ります。正直、その地域や言葉などに慣れるだけでも大変ですが、今後もチャンスがあれば、その土地土地の障がい福祉に携わっていていただけたらいいなと思っています。転勤族だから色々な現場をみれるチャンス…と前向きに考えていきたいです。

Q5:最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。

いまでも、大学の仲間に会いたいなと思いますし、当時のことを思い出します。講義については、もっと積極的に深く学べば良かったなと思いますし、今受けるとまた違ったおもしろさがあるのかな…と思います。

大学4年間は、とにかく自由で自分次第でいかようにも組み立てられる時間だったのだなと思います。皆さんは、人生の内で貴重な時間を今まさに過ごしています。



横手市役所健康福祉部社会福祉課障がい福祉相談員

中山 智子さん(社会福祉学科2005年卒)



同窓生は今

仕事前の準備を怠らず、いつも全力で患者様と向き合う

Q1:勤務先について紹介してください。

長野県松本市にある相澤病院です。急性期医療を担っている地域の中核病院です。

Q2:学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか？

理学療法学科、6期生の定期的な飲み会です。本当に楽しかったです。

Q3:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

強く及ぼしていると思います。大学の授業があったからこそ、現在楽しく仕事が出来ているだと思います。

Q4:今後の夢や目標を教えてください。

患者様を即時に改善出来るような理学療法士になりたいです。

Q5:最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。

同窓生へ:SNSなどでいつも刺激を受けており、日々の活力になっています。働く場所や業務内容は違いますが、これからも刺激し合っていきましょう。

在校生へ:仲間を大切にして大学生活を満喫してください。

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 勤務

岩谷 友倫さん(理学療法学科2010年卒)



同窓生は今

急性期でも、回復期でも、そして維持期でも！QOL向上第一のリハビリを目指して

Q1:勤務先について紹介してください。また、仕事内容について教えてください。

当院は一般病棟97床、医療療養病棟167床、介護療養病棟68床、全332床を有する中規模病院です。主にSTは失語症、dysarthria、認知症、摂食嚥下機能障害を対象に、急性期～維持期までの幅広い患者様にリハビリを行っています。リハビリスタッフは20名弱、STは現在3名が所属しています。

Q2:学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか？

最も強く印象に残っているのは学祭です。当時、自分はダンスサークルに所属すると同時に学祭の実行委員を務めていたりと、イベント等に積極的に関わっていたこともあり、かなり忙しかった時期もあったのですが、多くの仲間と苦楽を共にして作り上げた学祭は今でも忘れられない思い出です。

また、臨床実習の準備・対策をしたり、連日国家試験の勉強をしたりしたことも、かなりきつかったはずですが、今はいい思い出ですね。

学生時代の4年間は本当に毎日楽しく過ごすことができました。出会えた先生方や仲間達には感謝しています。

Q3:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

確かに影響していると思います。STになるために日々講義等で学んだ基礎科目、専門科目等の知識や臨床実習での多くの経験はもちろん、大学生活のなかで多くの他学科の学生と接する機会があった、というのも大きいと思います。他学科の友達がいるということは、同時に他職種のことを良く理解することに繋がっており、学生のころから自然とそれを経験出来ていたことで、現在の他職種連携がスムーズになっていると実感しています。多くの学科がある大学の大きな利点だと思います。

Q4:今後の夢や目標を教えてください。

自分が日々臨床を行なうあたり、「患者様の立場、目標に立って物事を考える」ということを常に気をつ

医療法人 回生会 大西病院 勤務

早川 慶さん（言語聴覚学科2008年卒）



けるようにしています。当院は療養病棟を有していることもあります、重度の患者様もかなり多くありますが、一般的な回復期を過ぎた方でも緩やかに回復していく方や様々な変化がみられる方を経験します。それの方やその家族が何を望み、それを実現する為にリハビリとしては何ができるのか、この姿勢や技術を磨いていくことが今の目標です。一人でも多くの人が笑顔になってくれれば良いなと思っています。

Q5:最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。

卒業後から6年以上の時間が経ちましたが、日々の臨床ではまだまだ至らない点もあり、また新しい発見も得られ、日々勉強だなあと感じています。北海道では新潟医療福祉大学の同窓生に会える機会というのはあまりないのが残念ですが、この北海道の地でも同窓生各位の活躍を聞き及ぶこともあります、身の引き締まる思いです。北海道にも新潟医療福祉大卒が増えないと嬉しいなと思います。

在学生のみなさんに対しては「良く学び、良く遊べ」と申し上げたいと思います。勉強はもちろん大事です。自分を含めおそらく大半の人が「学生の頃もっと勉強しておけば良かった!」と思っていますので、同時によく遊んで、いろいろな経験をしておくのも大事です。スタッフや患者様と接する時、話の引き出しがたくさんあるのは良いことです!良く学び、良く遊んで、人間的に「厚み」のある人になってください。



同窓生は今

『食はすべてのエネルギー！』仕事をする！

Q1:勤務先について紹介してください。また、仕事内容について教えてください。

私は五泉市教育委員会学校教育課に栄養士として勤務しています。学校給食係に所属し、私を含めて4人の栄養士で学校や幼稚園に通う子供たちの給食の献立を考え、子供たちへの栄養指導を行うのが主な仕事です。給食以外の仕事では、五泉市の食育運営も行っています。毎年色々な取組を計画して実施しています。五泉市に住む人たちが食に興味をもち、自分たちの食習慣を良いものにしていくように日々試行錯誤しながら仕事に取り組んでいます。

Q2:学生時代の思い出。特に印象的だったことは何ですか？

栄養士が働いているいろいろな現場にとにかくたくさん実習に行ったことが一番印象に残っています。講義はもちろん学校でも実習があり、たくさんの専門知識を学びました。いざ現場に実習に行く今まで学んできたこと以上のことを短期間で経験することができました。保健所、病院、学校と本当にいろいろな環境で実習しました。もちろん、それなりに厳しいときもありましたが、楽しいことや新しい発見も待っていました。実習で経験したことは、今でも鮮明に思い出せるくらい心のこっています。

Q3:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

給食と食育を担う職場で勤務しているので、本当にたくさんの人々と協力して仕事をすることが多いです。大学では、学部・学科を越えて様々な職種の勉強をしている学生と連携して一つの事例について検討し学び合う機会がありました。また、企業の方と協力して弁当作りに取り組む機会もありました。その時に経験した、たくさんの人たちと協力して一つのことを達成した時の感

五泉市教育委員会学校教育課 勤務

樋口 辰也さん（健康栄養学科2011年卒）



覚、これがいまでも仕事をする力になっています。

Q4:今後の夢や目標を教えてください。

行政の栄養士として勤務していくためには、様々な分野に精通していかなければいけません。今は、学校給食中心の業務に取り組んでいますが、成人や乳幼児期を対象にした業務に従事する可能性もあります。仕事に求められる知識は、一部に偏ったものはないので、これからも幅広く知識を身につけてマルチに活躍できる栄養士として活躍するのがこれから夢であり目標です。

Q5:最後に、同窓生やこれから社会に羽ばたく在学生にメッセージをお願いします。

在学生のみなさんにどんどん挑戦してほしこ

①いろいろなひとと交流しましょう！

授業を通じて知り合った人、サークルや部活で知り合った人、アルバイトで知り合った人とにかくたくさんの人と交流しましょう！

②仲間とたくさん思い出をつくりましょう！

学生時代の楽しい思い出は、いつまでたっても楽しいものです。今しかできない思い出作りをたくさんしましょう！

③もちろん勉強も頑張りましょう！

思い出作りはもちろんですが、勉強も頑張りましょう！身についた知識は、仕事で間違なく発揮されますよ！

心に届くいい話

私はとある障がい者関連の通所系施設で働いております。この街には、障がい者のグループホームや通所系の施設がたくさん存在し、障がいを持つ方もたくさん暮らしています。現在、この地域では、障がい者も1人の住民として地域の方々と助け合いながら、生活をしています。しかし、以前からこの街で障がい者と地域の住民が助け合いながら暮らしていたわけではありません。障がい者の施設がこの地域に作られる前は、住民からはたくさんの反対の声が聞かれました。そんな中、この地域に障がい者施設が作られ、生活を始めました。はじめは距離を置く住民も居りました。しかし、この地域は豪雪地帯であり、若くて力のある障がい者の力も借りながら雪かきをするようなこともあります、一緒にになって地域で暮らしていくうちに、ひたむきに働き、地域に

貢献する障がい者に対する理解が徐々に広がりました。近年、高齢者の増え続けるこの地域にとって、障がい者の力は不可欠なものとなっています。今では、障がい者の方が街を歩いていると、地域の住民から声をかけ、自宅でお茶とお菓子を食べながらお話ししているような光景も当たり前に見られるようになりました。あなたの街にはこんな光景が存在するでしょうか??この社会では、「知らないことに対する偏見や差別」がたくさん溢れています。障がい者に対しても同じような傾向があることも事実です。みなさんも、一歩踏み出して、知らないことを1つでも知つてみませんか??そこには意外な出会いも待ち受けているかもしれません。

社会福祉学科 2014年卒

学科近況

理学療法学科

講師 松本 香好美



同窓生の皆さん、元気に頑張っておられることと存じます。大学時代を思い出すことはありますか?理学療法学科の1年間を振り返り、近況報告をしたいと思います。少しの間、キャンパスを思い出して下さいね。

4月から玉致敬悟先生が赴任され、学科教員は計22人となりましたが、皆さんに大事なご報告が1点あります。開学以来、理学療法学科を支えてこられた押木利英子先生がこの3月に退官されます。本学のOSCEを確立され、また近年は学習支援センターの発展にも従事されました。母親的存在であった押木先生とE棟で毎日顔を合わせられないのは残念ですが、今後の押木先生のご健勝とご多幸を皆さんと共に祈念したいと思います。

また学生報告としては、国内のトップスイマーが出場する水泳大会で、理学療法学科3年の松井浩亮くんが自由形で入賞を果たしています。オリンピック選手まであと少し。TVにもよく映るようになりました。同窓生の皆さん、応援宜しくお願い致します。



押木先生①OSCEの様子



松井君

作業療法学科

助手 外川 佑



卒業生の皆様、元気にご活躍されておりますでしょうか?本学科の近況報告をお伝えします。昨年は6月に世界作業療法士連盟大会16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapist: WFOTが日本作業療法学会との共催で横浜にて開催されました。WFOTでは7,000名近くの参加があり、本学教員の発表はもちろんのこと、WFOT後には本学にクイーンズ大学(カナダ)の教員をお招きし、特別講義や国際交流、国際シンポジウムが開催されました。

9月には我らが泉良太先生が講師に昇任されました。今後の益々のご活躍が期待されます。

最後に、学生の現状(1月現在)としましては、4年生は国家試験に向けて猛勉強中です。3年生は総合臨床実習に向けて、実技練習や後期定期試験の勉強に励む毎日です。2年生は未来の実習に向けての知識・技術を日々、修得中です。1年生は新カリキュラムとなっているため、2年次に評価実技の体験を主とした実習が控えています。今後とも皆様からの、作業療法士を目指す学生への温かいご支援をいただければ幸いでございます。



言語聴覚学科

講師 内山 信



卒業生の皆さん、如何お過ごしでしょうか。本学科では講師の桑原桂先生、助教の大石如香先生、助手の市野千恵先生を新たにお迎えして1年が経過するところです。

さて昨年8月にロサンゼルス海外研修が行われ、5名の学生が参加しました。レッドランズ大学では嚥下障害や聴覚障害についての講義を受講し、南カリフォルニア大学病院ではSLPの臨床を見学しました。学生はアメリカの文化を体験し、大変充実した研修となったようです。帰国後には報告会が行われました。

昨年も学会等で卒業生の皆様がご活躍されている姿を拝見でき、教員一同大変うれしく思います。本年6月26(金)、27(土)には第16回日本言語聴覚学会が仙台国際センターで開催されます。テーマは「臨床力を鍛える～言語聴覚療法の発展と開発～」です。ぜひ、学会発表や懇親会などで卒業生・教員との旧交を温めましょう。皆様再会できることを楽しみにしております。



義肢装具自立支援学科

助教 須田 裕紀



卒業生の皆さん、お元気でしょうか?今年度は4月に第8期生と助教の高橋素彦先生を迎えて始まりました。5月には義肢装具教育プログラムの世界最高水準を目指し、ISPO(国際義肢装具協会)のCategoryI取得に向けた取り組みを始めました。6月から9月には3、4年生が全国各地で臨床実習を行い、教員で分担して実習施設を訪問しました。その際、実習生の様子と共に皆さんの活躍している姿や話を聞き、大変嬉しくとも感じました。9月には真柄先生を大会長とする「第7回 日本保健医療福祉連携教育学会」が新潟で開催され、今後の医療福祉分野における他職種間連携が対象者のQOLの向上と我が国の医療福祉の財政を軽減させることを改めて認識し、本学を卒業した皆さんがその重要な役割を担っていることを再確認しました。平成27年度には義肢装具自立支援学科のOB会が発足され、いよいよ平成28年度には学科設立10周年を迎えます。今後とも、学科の運営並びに後輩の指導にご支援とご協力ををお願いいたします。写真は本年度より実施している片麻痺者のモデル協力による下肢装具の製作適合実習です。



臨床技術学科

学科長／教授 追手 魏



平成23年4月に第一期生を迎えた臨床技術学科は臨床検査技師、臨床工学士の両国家資格を大学卒業と同時に取得できるようカリキュラムを整備しました日本で初めての大学・学科です。写真1はその第一期生が入学時に、大学の中庭で学科教員と撮影した集合写真です。早いもので、この学生も第一期卒業生として大学を卒立って行きます。同窓会の皆様も、どうぞ彼らを温かく同窓生として迎え入れ、今後の活躍そして発展を見守っていただきますようお願い申し上げます。

主な学科関連の行事について紹介させていただきます。平成25年10月19日(土)、私たちの学科担当による第13回新潟医療福祉学会が開催され、特別講演(内山 聖・新潟魚沼基幹病院病院長)、シンポジウム(「現場から求められている医療・福祉系大学の問題」について6名の演者)(写真2)、一般演題が行われました。また昨年10月31日には当学科大学院設置記念講演会が開かれ2名の特別講演者とともに学科の発展を祝いました(写真3)。



写真1



写真2



写真3

健康栄養学科

助教 串田 修



みなさんお元気ですか?当科の学生はタイトな学業の中、本年度も地域貢献・研究活動・国際交流と大活躍しています。

まず、地域貢献では恒例のサツマイモ事業で、学生念願の「『大学は美味しい!!』フェア」へ出店を果たしました。学生が考案したスイーツは新宿高島屋でも大好評でした。最近では巷にもサツマイモ(シルクスイート)や関連商品が増えていますので、見かけた際にはお手に取ってもらえると幸いです。

次に、研究活動では新潟県栄養士会主催の「新潟栄養・食生活学会」で、卒研生5組が発表を行いました。学生自身も研鑽を深められたようです。来年度には当科主催で「新潟医療福祉学会」も開催しますので、この機会に現場の実践例を発表されてみてはいかがでしょうか。

最後に、国際交流ではJICA研修プログラムで、多くの学生がお手伝いをしてくれました。学生は外国人研修員と意思の疎通が行えるよう一生懸命努力していました。役に立ちたいという気持ち人は人のためでもありますが、何より自分のためになることを学生時代に感じとって欲しいと思っています。



視機能科学科

学科長／教授 阿部 春樹



同窓会員の皆様には、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

視機能科学科は、視能訓練士の国家資格取得をめざした視能訓練士養成学科として、昨年4月に新設され57名の1期生を迎えてスタートいたしました。学生は視能訓練士に必要な専門的な技能とコミュニケーション能力、そして他学科との連携で複合的なスキルを身につけるための教育を受けております。さらに現役の視能訓練士を大学に招いて、現場からの様々なメッセージを学生に対させていただきました。また学業以外では、各ゼミ対抗の「阿部杯バーレーボール大会」や福島潟のキャンプ場でバーベキューを楽しみました。さらに10月10日の「眼の愛護デー」では、学生が中心になって地域の保育園の園児を対象にした紙芝居による「眼の健康」に関する講習会を開催しました。この企画は大変好評で、多くの保育園から開催のリクエストを頂いております。

以上、視機能科学科の1期生は、着実に視能訓練士への道を歩んでおります事を、御報告申し上げます。



1月 新春お年玉企画 現役視能訓練士による講話

健康スポーツ学科

講師 杉崎 弘周



卒業・修了生の皆様におかれましては、各分野でご活躍のことと存じます。現在、健康スポーツ学科の在籍学生数は600名を超え、教員数も36名となっております。

部活動では、陸上競技部の日本選手権入賞、水泳部のスイミングワールドカップ入賞、サッカー部からのJリーガー誕生、ダンス部のダンスフェスティバル特別賞受賞など、これまで以上に素晴らしい成績を収めています。

また、本学科の特徴的な取組として、運動教室を通じた地域貢献がありますが、高齢者を対象とした「イキイキ運動教室」、子どもを対象とした「陸上教室」、「体力アップ教室」、「ちびっこハッピーダンス教室」、「スイ游水泳教室」、「あそびの日」、「バーレーボール教室」などに地域の多くの方から参加していただいております。今年度は、佐渡市での出張教室として、陸上教室、ダンス教室、バーレーボール教室を実施し、大変ご好評をいただきました。

このように学科の活動が充実しているのも、卒業・修了生の皆様が礎を築いてくださったおかげです。皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念しております。



看護学科

准教授 西川 薫



看護学科では、4年生に焦点をあてて2つの近況報告をさせて頂きます。4年生は10月末提出の卒業研究を終え、最後の科目ともいえる看護実践論を12月に終えました。看護実践論は、これまでに修得した看護学の知識・技術を統合し、安全で確実な看護を実践する能力を養うことを目的とした学びの集大成とも言えます。学生たちは、真剣に遙しく課題に取り組んでいました。教員として学生たちの成長を感じできる幸せな瞬間でした。

1月8日(木)には、2月に実施される国家試験(看護師・保健師・助産師)に向けて結団式をおこないました。塚本学科長をはじめ教員からの励ましの言葉と3年生からの応援メッセージが記入されたキットカット(きっと勝つ!)が一人ひとりに手渡されました。最後に円陣を組み「合格するぞ!」という号令に「おーっう!」と気合を入れ全員で合格を誓いました。この結団式は、今年で開設10年を迎える看護学科の1期生から引き継がれた恒例行事として定着しています。



医療情報管理学科

学部長 / 教授 福島 正己



第一期の卒業生を送り出して半年が過ぎようとしています。一期生の皆さん、社会人としてどの様な毎日を過ごしているのだろうか?と時折思います。皆さんが残してくれた就職ランキング全国第6位^{*}の実績は、皆さんの努力の賜物として誇りに思います。人生いろいろあるでしょうが、楽しく頑張って、自己実現を目指してください。

4年生は、卒業研究が始まりました。就活中の学生は、大変ですがきっと目標を達成してくれると確信しています。3年生は、資格試験に向け本格的に取り組み始めています。学外実習、就職研修等頑張り時です。2年生は、学生生活を謳歌しています。少し度が過ぎているかも?後期から指導強化!です。1年生は、これからです。新カリキュラムで資格試験対応を早めています。

*出典:「就職に強い大学2014」(読売新聞社)より



社会福祉学科

准教授 青木 茂



社会福祉学科では、昨年11月23日・24日に佐渡市相川稻鯨地区において、全世帯(約250世帯、約600人)を対象に住民アンケート調査を実施しました。このアンケートは、佐渡市が平成22年度から取り組む「佐渡市安全・安心地域推進プロジェクト」(福祉版コンパクトシティ事業の一環として行われたもので、アンケート用紙の配布、回収作業を3年生30人、教員2人が集落住民と共に行いました。アンケートでは、学生が調査の趣旨を丁寧に説明し、記入のできない高齢者へは聞き取りを行うなどの結果、高い回収率となりました。漁師町である稻鯨地区を地域踏査することにより、集落内の坂の多さや買い物する店が無いなど高齢者には不便な地理を知る一方で、日本海にしづむ夕日の素晴らしさ、自然の豊かさに魅了され、座学ではできない貴重な体験をすることができました。社会福祉学科ではこのように地域貢献をとおして学生が学ぶフィールドワークを重視した活動に力を入れています。



日本最大規模の
「理学療法士」養成校へ
生まれ変わります



Quality of Life



医療技術学部

理学療法学科

Department of Physical Therapy

2016年4月 | 入学定員
定員増(計画中) | 80名 ▶ 120名

*定員・その他計画は変更となる場合がございます。

研究室Now

健康スポーツ学科

健康スポーツ学科 講師
杉崎 弘周



Q.先生の研究・活動内容を教えてください。

私の研究分野は保健教育と学校保健です。いずれも児童生徒および学校を対象としており、この対象のためになる研究をしたいという動機から取り組んでいます。

学校保健の研究テーマの一つが学校におけるインフルエンザ流行予防についてです。2009年、新型インフルエンザ(当時)が大流行し、パンデミックという言葉がこの頃から一般化しています。その後、麻疹の大流行、 Dengue熱やエボラ出血熱の国内外での発生がありました。一方、学校においては毎年、季節性インフルエンザの流行防止が課題となっています。学級閉鎖は日本で伝統的に行われてきましたが、海外では例をみないものでした。しかし、インフルエンザの流行時に学級閉鎖を「するかしないか」、「いつするか」、「何日間するか」、そもそも「学級閉鎖の効果とは何を指すのか」といったことへの根拠が示されていませんでした。私はこれらの問い合わせに対する一応の答えを複数シーズンのデータから導き出し、海外の医学科学雑誌に発表しています(Sugisaki K, et al. 2013) (図1)。

最近の研究テーマは、保健教育と学校保健を跨いでおり、がんについての教育に関するものです。現在、日本人の二人に一人は一生のうちにがんにかかり、三人に一人ががんで亡くなっています。しかし、学校教育において、がんについて教える機会はほとんどありません。このような問題意識から、無作為抽出した全国の小学校、中学校、高等学校において調査を

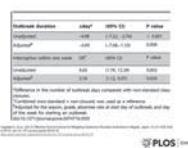


図1

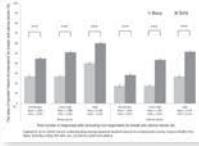


図2

実施し、わが国の児童生徒のがんについての知識の実態として、学年進行により知識が高くなること、女子の方が男子よりも知識が高いことなどを実証しました(Sugisaki K, et al. 2014) (図2)。特に、乳がんと子宮がんについての知識は男女で大きな差があることを示しました。2012年に閣議決定した「がん対策推進基本計画」には、がんの教育の充実が盛り込まれており、文部科学省も2014年度よりがん教育のモデル事業を全国70の小中高校で始めるなどしています。がんについての教育カリキュラムや教育内容に研究成果が生かされることを願っています。

ゼミでは、保健の教材づくり、海外の健康教育の方法や学校保健の制度などをテーマしています。ここでのキーワードも児童生徒および学校です。英国のウェールズにおける学校健康教育の評価、アメリカのカリフォルニア州におけるヘルスタンダードなどを取り上げています。

Q.趣味や休日の過ごし方を教えてください。

毎週日曜日、自分自身が学生時代に陸上競技を取り組んでいた経験を生かし、子どもたちに陸上競技を教える活動を行っています(図3)。毎週、主に北区の小学生を対象とした陸上教室を本学のトラックや体育館で実施しています。競技力向上に特化したものではありませんが、子どもたちが楽しみながら走りの基本を身に付け、成果を実感することを大切にしています。本学の公認トラックで行われる記録会やビッグスワンで行われる競技会への出場を目指して取り組んでいます。



図3

趣味は特にありません。プロフィールなどに「趣味・特技」の欄があると、いつも困っています。

Q.同窓生へコメントをお願いします。

私自身もそうでしたが、社会に出てみると「学生」の良さを改めて感じます。社会人になってしまふと、自由な時間的のが少ないと責任が発生することなど、気楽な学生時代とは違った生活をされているのではないかでしょうか。しかしながら、皆さんが費やした時間や果たした責任に対して、賃金や信用といった対価を得ているはずです。或いは自己実現を積み重ねている方もいると思います。さらには、必ずだれかの役に立っているはずです。「役に立つ」の一例が、本学の評価向上や在学生の励みに繋がっていることではないでしょうか。これからも、本学を卒業・修了された皆さんのが活躍される様子を耳にすることを大学で楽しみにしています。



研究室Now

医療情報管理学科

医療情報管理学科 教授
石上 和男



Q.先生の研究・活動内容を教えてください。

私の研究は、保健医療福祉分野における行政施策の効果分析です。とても難解に聞こえますが簡単に言えば、国や地方自治体が行う行政施策について、実施に至る背景や、施策の実施方法、その施策効果、そして課題や問題点の抽出に至る一連の過程を研究することにあります。すなわち行政施策とは皆さんから頂いた税金を、いかにみんなのために使うことができるかということですので、それらが本当に効果があったのかを明らかにすることは、とても意味のあることだと考えています。

私は、36年間にわたり新潟県庁で保健医療福祉の分野に携わっていましたので、これまで行われてきた行政施策、私の専門分野である歯科保健の経済効果分析はもちろん、わが国の喫緊の課題である高齢者施策や少子化対策などについても、現場に根ざした研究を深めていきたいと考えています。

そして、できるだけ多くの市町村に出向き、直接に調査や意見交換を行うことにより、住民に最も身近なサービスの実施主体である市町村行政の受け止め方や、具体的な施策の展開方法、実施上の課題などについて明らかにしていければと考えています。

Q.趣味や休日の過ごし方を教えてください。

現在最も力を入れている趣味は、釣船に乗って行う真鯛釣りです。写真は昨年夏に新記録を出した85cm、8.5kgの真鯛です。数は釣れませんが、真鯛独特の引きは格別で、一度味わったらやめられなくなります。釣れた魚はすべて自分で捌き、調理しますが、これがまた楽しいのです。

次に力を入れていることは家庭菜園です。市民農園を2区画借りているほか、女房の友人の畑を借りて、四季折々の野菜やイモ類等をたくさん作っています。何といっても自分で作ったもので、新鮮なものを食べることができるのが最高の喜びですが、種を播く時期や苗を植える時期など適期を守らないと上手にはできません。また、一度に食べきらなくらいの量ができるので、近所におすそ分けし喜んでもらうことも楽しみの一つです。

それから自宅の庭でバラを育てていることも趣味のひとつでしょう。私には「不似合いだ」と皆さんがいうのですが、本人は気にせず百本程度のバラを可愛がっています。

このように、休日は海釣りや家庭菜園、バラの手入れであつという間に過ぎてしまいます。

Q.同窓生へコメントをお願いします。

まだまだ歴史の浅い本大学ではありますが、逆にひとりひとりが新しい分野を切り開き、歴史を作っていくことが可能でもあります。しっかりと本学で学んだことを世の中に生かすという氣概を持ち、それぞれの持ち場で健闘されることを心から願っています。

クラブハウス竣工

2月に北側の陸上競技場・硬式野球グラウンド・室内野球練習場の間にクラブハウスが完成しました。

室内にはミーティングルームやシャワー完備の更衣室等充実した施設になっています。

特に硬式野球部や陸上競技部、テニス部などが活動をする際に便利な施設となっています。

大学に来られた時には一度お立ち寄りください。



『第14回新潟医療福祉学会学術集会』開催報告

新潟医療福祉学会は、本学が設立されると同時に、本学を中心にした新潟県内の健康と医療福祉に関わる職業を専攻されている人たちの研鑽の場として立ち上げられました。また、個々の職能者のみを対象とする学会ではなく、健康と医療と福祉に関連したすべての職種の人たちを対象とした幅広い職能者が集う貴重な機会として、情報交換しながら、「チーム医療」を実感できる場にもなっています。

今年度は、10月25日(土)、本学キャンパスを会場として、プロジェクト研究センター報告3題、一般演題5題、ポスター発表63題、特別講演及びシンポジウムを含め、全部で76題の発表が行われ、発表後には、会頭賞・奨励賞の表彰が行われました。

【テーマ】

「地域包括ケアシステムの構築と保健・医療・福祉専門職の役割」

【特別講演】

「新潟市における「地域包括ケアシステム」構築について一医師会の取り組みを中心に一」

講師:藤田一隆(一般社団法人新潟市医師会 会長)

システム構築に向けて新潟市医師会等が取り組んでいる「新潟市医師会在宅診療医ネットワーク」、「在宅医療IT関連事業」、「在宅医療連携拠点事業」について述べるとともに、究極の課題である「看取り」について考える。

【シンポジウム】

「地域包括ケアシステムの構築と保健・医療・福祉専門職の役割」

「今変わる在宅医療～地域包括ケアシステムを支えるために」斎藤忠雄(斎藤内科クリニック 院長)

モデル事業を紹介しながら、新潟市の医療計画ならびに地域包括ケアシステムによる将来を展望する。

「地域包括ケアシステムに病院看護師はどう関わるか」

柏木夕香(新潟県立がんセンター新潟病院 副看護師長)

システムにおいて、病院看護師が何をどのようにして地域につなげ、また、地域から何を受け取るのか明らかにしていくことにより、看護師の役割を述べる。

「地域包括ケアシステムにおける連携室ソーシャルワーカーの役割」

斎川克之(済生会新潟第二病院 地域医療連携室 室長)

地域の課題抽出、問題解決のためのコーディネート、様々な社会資源の結びつけなど、システムにおいて複雑多岐な業務を担う病院連携室のソーシャルワーカーの役割について述べる。

「地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション職種の役割」

郷 貴大(公益社団法人新潟県理学療法士会 理事)

システム構築に向けて、リハビリテーション職種が目指す広域で社会性の高い活動について述べるとともに、実現に向けて生じ得る問題点についても取り上げる。

午前の部では、本学研究推進機構プロジェクト研究センターの活動報告、一般演題の口演発表及びポスター発表が行われました。



午後の特別講演・シンポジウムには、地域包括ケアシステムに関心が高い行政関係者をはじめ、病院・医師会・社会福祉協議会等から、120名を超えるご参加をいただき、新潟における現在の取り組みや目指すべき方向性、生じてくる課題等を共有することができました。



皆さまのご支援とご理解のもと、学内・学外会員 95名、非会員124名など、250名以上の方々にご参加をいただき、盛会のうちに今回の学術集会を終えることができました。改めて心よりお礼を申し上げます。

次の第15回新潟医療福祉学会学術集会は、健康科学部健康栄養学科の斎藤トシ子学科長を大会長として開催される予定です。来年度も多数のご参加をお待ち申し上げております。

【国際交流】国際協力機構(JICA)生活習慣病予防研修実施報告

10月29日(水)～11月27日(木)に渡り、独立行政法人国際協力機構(JICA)の要請を受け、フィジー、バヌアツ、ソロモンの3カ国から看護師や栄養士等計11名の研修員を受け入れ、生活習慣病予防に関する研修【「大洋州における地域保健での生活習慣病予防対策コース」フェーズII】を実施いたしました。日本における生活習慣病の現状・対策とその効果について理解を深めるため、健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科の教員による講義・実習のほか、学外へ赴き現地見学が行われました。また、学生との交流活動や新潟県庁や新潟市役所への表敬訪問、病院見学、日本文化体験、青年海外協力隊OBとの交流会など、様々なプログラムを実施いたしました。帰国後は、本学で学んだ成果を各国の関係者に普及する予定となっています。

研修員からは、「本研修でパソコン・写真・絵等のツールを利用して教材を作る技術を習得でき、本プログラムは様々なターゲット層向けの健康新進活動に大変役立つ」というコメントが寄せられたほか、「日本について、衛生的・友好的・協力的である」とこと、また「本学の歓迎の意を感じた」等、喜ばしいコメントが得られました。

■研修期間：10月29日(水)～11月27日(木)

■対象国・人数：フィジー(9名)・ソロモン(1名)・バヌアツ(1名) 計11名

■研修目的：

地域医療保健サービスに関わる看護職者が、生活習慣病予防のための知識や技術を獲得し、自国の実情に合った予防対策計画を立案し、関係者に普及する。

■研修内容：

1)自国や大洋州地域における問題点とその対応策の動向(国レベル～地域レベル)を説明する。

2)日本における生活習慣病の現状・対策とその効果について理解を深める。(健康診断、栄養、運動)

3)生活習慣病予防に対する具体的な健康教育法および促進法を学ぶ。

4)自国の地域や学校において活用できる生活習慣病予防プログラムおよび教材を作成する。

5)作成したプログラムのモニタリングおよび評価方法を学び、自国における生活習慣病予防計画を策定し発表する。



栄養教育実習の様子

茶道の説明の様子

茶道体験後の記念撮影

青年海外協力隊OBとの交流会



栄養教材作成の様子

栄養教材発表の様子

学生との昼食交流会「コーヒーハウス」での様子

観光の様子(弥彦菊まつり)



健康度評価と目標設定における研修の様子(本学栄養学科学生)

佐渡市太鼓体験交流館での記念撮影

閉幕式後の記念撮影

送別会にて よさこい部との交流の様子

大学TOPIC 1

【運動機能医科学研究所】

「第4回日本基礎理学療法学会」において、本学大学院生の高林知也さんが優秀演題に選出されました。

今年の5月に開催されました「第4回日本基礎理学療法学会」において、本学大学院生の高林知也さん(博士1年(久保雅義研究室)、学部8期生)が優秀演題に選出されました。

高林さんはこれまで久保雅義教授とともに三次元動作解析装置(VICON)を用い、ヒトの動作解析の研究を行ってきました。

今回は足部と下腿に着目し行った研究です。以下に研究要旨を記載いたします。

「歩行速度が足部内の運動学的因子および運動連鎖へ与える影響」

- 1) 高林知也、1) 稲井卓真、1) 横山絵里花、1) 江玉睦明、2) 徳永由太、1) 久保雅義
- 1) 新潟医療福祉大学 運動機能医科学研究所
- 2) 医療法人愛広会 新潟リハビリテーション病院 リハビリテーション科

運動連鎖とは、関節運動が他の関節へ影響することを指します。これまで歩行速度の変化が足部と下腿における運動連鎖へ影響することが明らかとなっていました。しかし、足部内の詳細な運動連鎖は明らかになっておりません。そのため、本研究は歩行速度の変化が足部内(後足部と中足部)の運動連鎖に与える影響について検証することを目的としました。その結果、歩行速度が増加するにつれて、足部内の運動連鎖が強く生じることが明らかになりました。運動連鎖の概念は、臨床現場における動作分析や治療によく用いられています。この結果は、リハビリテーションにおける基礎的な知見に成り得ることが考えられました。

今後は足部変形を伴う患者は、様々な二次的障害を引き起こすことが報告されています。本研究では健常成人を対象としたため、今後は扁平足や外反母趾患者を対象に、足部内の運動連鎖がどのように変化するか検証していくと考えています。

大学TOPIC 3

【健康栄養学科】

学習支援センター & 健康栄養学科共同企画「自炊ワークショップ」初開催!!

2014年9月22日(月)、学習センターと健康栄養学科の共同企画として、「自炊ワークショップ」が初開催されました。

実施者: 健康栄養学科 近藤幸子助手、健康栄養学科4年 本田優美、渡部栄

参加者: 女子バレーボール部員17名

健康スポーツ学科 濱野礼奈講師(女子バレーボール部監督)

健康スポーツ学科15名(1年生5名、2年生7名、3年生1名、4年生2名)

医療情報管理学科2名(1年生、2年生各1名)

一回目の今回は、健康スポーツ学科濱野先生にご協力いただき、スポーツ選手としての自己健康管理は食事管理からという考え方のもと、「目指せ♥女子力アップアスリート」と題して、毎日の自炊における参加者の調理レパートリーを増やし、栄養バランス、食事アレンジ力とともにアップさせる簡単なコツについて紹介する機会としました。参加者である女子バレーボール部員の学生は、17名中16名が一人暮らしで、普段から自炊やお弁当作りなど基本的な調理には慣れている学生なので、今回は①栄養バランスの基本について理解を深めること、②すぐにでも実践できる自炊メニューアレンジ術を知つてもらうことを目標とし、ワークショップを行いました。

ワークショップ終了後のアンケートでは、「これからバランスのとれた食事を心がけていきたい」「減量の為の食事メニューを学びたい」「もっといろいろな種類の料理を知りたい」などが挙げられました。今回は、バランスの良い食事の理解とその実践法の習得を目標としたため、アンケート結果から学生たちが積極的に内容を吸収してくれたことを確認できました。また、今後の課題としては、今回の方法を実践するにあたって、1食あたりに使用する食材量についてもよりわかりやすく理解できるような内容が必要と感じました。



実施者感想(健康栄養学科 近藤幸子助手):

今回参加いただいた女子バレーボール部の学生たちは、何と言っても本当にチームワークが良く、声を掛け合って積極的に話し合いや調理を行ってくれたので、大変やりがいがありました。調理も手際よく早い、余った材料も無駄にせず臨機応変に楽しみながら取り組んでくれた姿が印象的でした。今回紹介した実践法についても、すぐにでも活かせる応用力を兼ね備えた学生ばかりだったので、今後の自炊がより充実したものとなることを期待しています。スポーツ選手として、食事からの自己健康管理を楽しみながら実践していただき、今後の更多的な活躍をお祈りしています。

今回、このような貴重な機会を与えてくださった女子バレーボール部顧問の濱野先生、ご参加いただいた部員の皆様、実施までにたくさんのご協力をいたいたいた学習支援センターの皆様に深く感謝申し上げます。

大学TOPIC 4

【視機能科学科】

『目の愛護デー』に合わせて保育園で「目の講習会」を開催しました。

視機能科学科では、かかる教育を通じて、保健・医療・福祉サービス対象者のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上並びに地域社会の発展に貢献することを理念としています。

そこで、10月10日の「目の愛護デー」に合わせて、新潟市北区にあります新潟市立太田保育園で、幼児を対象とした「目の健康に関する講習会」を実施いたしました。

幼児期は、視機能の発達過程において一番大切な時期です。そこで、幼児の皆さんに目の健康、目の大きさを理解していただるために、「正しいテレビの見方」等、具体的な事例について紙芝居を使って説明しました。



【新潟市立太田保育園「目の講習会」実施概要】

実施園: 新潟市立太田保育園

実施日時: 10月10日(金) 17時~17時20分

対象: 3歳児~5歳児

スタッフ: 視機能科学科1年生 7名

【以下は参加した学生の感想です。】

●「目の愛護デー」の活動として保育園で紙芝居をすることが決まってから、日々準備に取り組みました。大型紙芝居を制作し、目の大きさを伝えるという主旨で、ストーリーの内容からすべて自分たちで試行錯誤し、考えました。制作は大変でしたが、実際に保育園で紙芝居を行うと、園児が興味を持ち、かつ楽しそうに聞いてくれたので、達成感を得ることができました。「目の愛護デー」を多くの人に知ってもらい、目を大切にすることを心掛けてほしいです。また、今後もこのような活動ができるたらと思います。

10月17日(金)には、2回目の講習会を実施する予定です。

視機能科学科では、この紙芝居による「目の講習」をご希望される保育園・幼稚園を募集しております。ご連絡をお待ちしております。

ご活躍されている同窓生

この度、作業療法学科7期生（大学院医療福祉学研究科修了生）の吉田翔太さんらの論文が、2014年度日本臨床神経生理学会優秀論文として表彰されました。

タイトル：
補足運動野に対する経頭蓋直流電流刺激が先行随伴性姿勢調節に及ぼす影響

著者：吉田翔太、桐本光、松本卓也、小島翔、鈴木誠、大西秀明、田巻弘之

吉田さんは卒業後すぐに本学大学院（桐本研究室）に進み、新潟リハビリテーション病院に勤務しながら上記論文のベースとなる研究に取り組みました。

経頭蓋直流電流刺激は、中枢神経系疾患の患者さんの運動機能に対する非侵襲的な介入手段として、ようやく国内でも注目され始めています。国内でも比較的早い時期に経頭蓋直流電流刺激に取り組んだ本研究では、これが補足運動野の機能に変調をきたした患者さんにも有効となる可能性があることを示唆しました。

吉田さんは現在、広南病院（仙台市）で勤務し、研究を再開する準備を始めているところです。

ミニ解説

本研究のセールスポイントは、tDCSにより非侵襲的にヒトの補足運動野の機能を可塑的に変化させうることを証明した点にあります。急速に上肢を屈曲する課題では重心が前方に移動しますが、この随意運動に先行して不随意に股関節を伸展させる筋が活動し、姿勢の乱れを抑制しています（先行随伴性姿勢調節）。健常被験者の補足運動野に対するtDCSにより先行随伴性姿勢調節機能を変化させたという本研究結果は、パーキンソン病患者の姿勢調節機能の改善にtDCSが有効かも知れないことを示唆していると考えられます。



受賞について

日本臨床神経生理学会の会員の大半は医師により構成される中、本学作業療法学科の卒業生が修士課程で行った研究の成果が表彰されたということは、なかなかの快挙ではないかと思います。熱い探究心を持った後輩達が今後も続いて現れることが期待されます。



理学療法学科大西学科長（右）と指導教員桐本准教授（左）との記念撮影



第44回日本臨床神経学会学術大会にて表彰状を授与される吉田さん



受賞の喜びを語る吉田さん

パーキンソン病とは

○どんな病気か

50歳以降に発症することが多く、いくつかの特徴的な症状がみられます。手足が震える、筋肉がこわばる、動作が遅くなる、歩きづらくなるなどで、徐々に症状が進行し、10数年後には寝たきりになる患者さんもいます。有病率は、人口10万人に対し100人程度です。

○原因は何か

原因は現在も不明です。脳の病理学的変化では、中脳の黒質にくしつドーパミン性神経細胞の変性が確認されています。ドーパミン性神経細胞の変性により、神経伝達物質であるドーパミンの産生が減少し、前述した特徴的な症状が現れます。

○症状の現れ方

初発症状は、片方の手の震え（安静時振戦）や歩きづらさ（歩行障害）が多く、前かがみで小さく歩くようになります。筋のこわばり（歯車様固縮）や

手足の震え（振戦）は当初は片側だけですが、進行するにしたがって反対側にも現れます。

1歩めが出にくくなり（すくみ足）、歩幅も小さくなります（小さぎみ歩行）。全体に動作が遅くなり（動作緩慢）、方向転換や寝返りが苦手になります。歩いているうちに足が体に追いつかなくなり（突進現象）、姿勢の反射も障害されている（姿勢反射障害）ために前のめりの姿勢を立て直せずに転倒することもあります。

そのほか、表情が乏しく（仮面様顔貌）、おでこや頬が脂っぽくなります。自律神経系では、便秘や立ちくらみ（起立性低血圧）が現れます。精神症状として、うつ状態もみられることがあります、一般には知能は正常に保たれます。

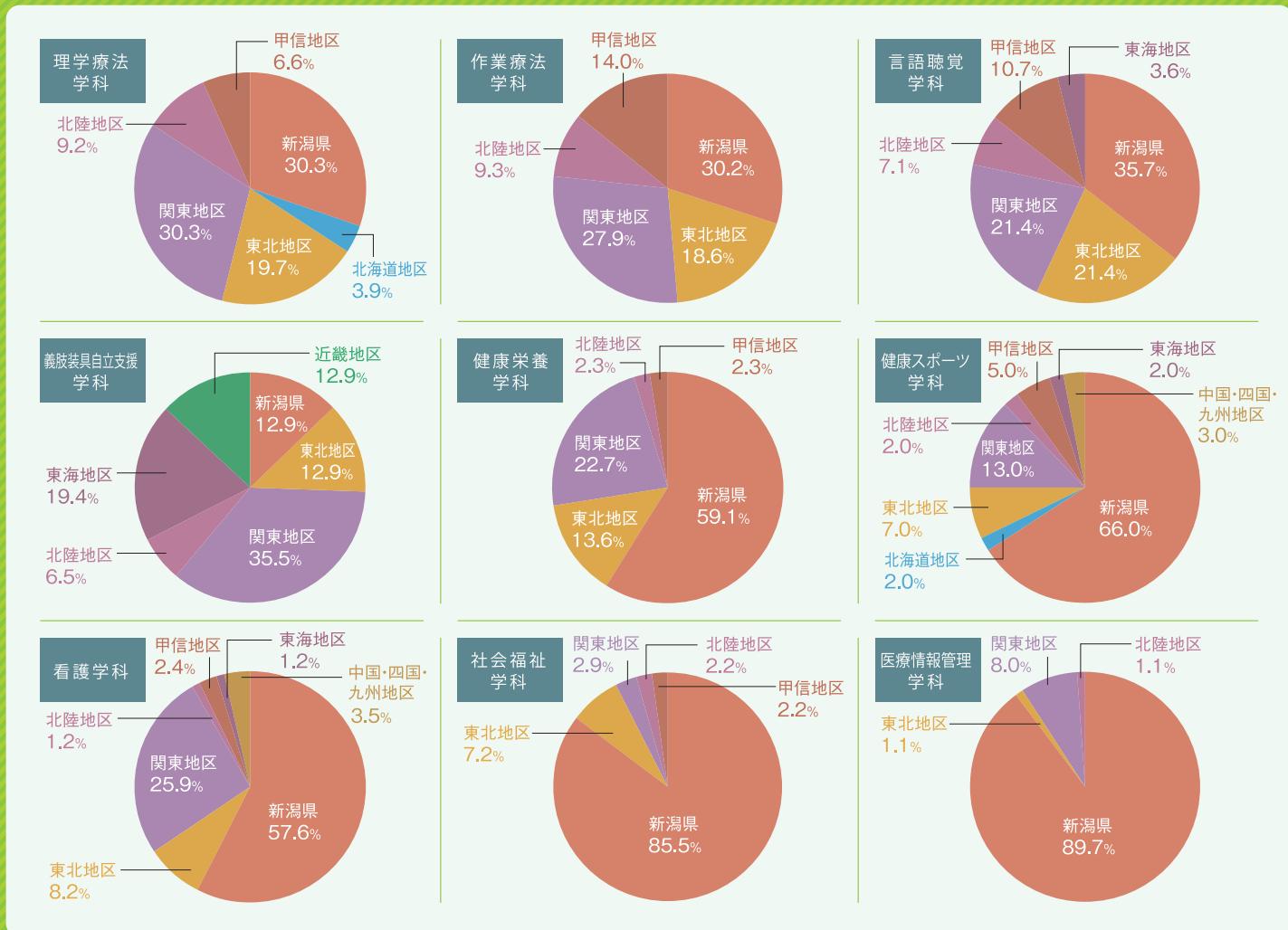
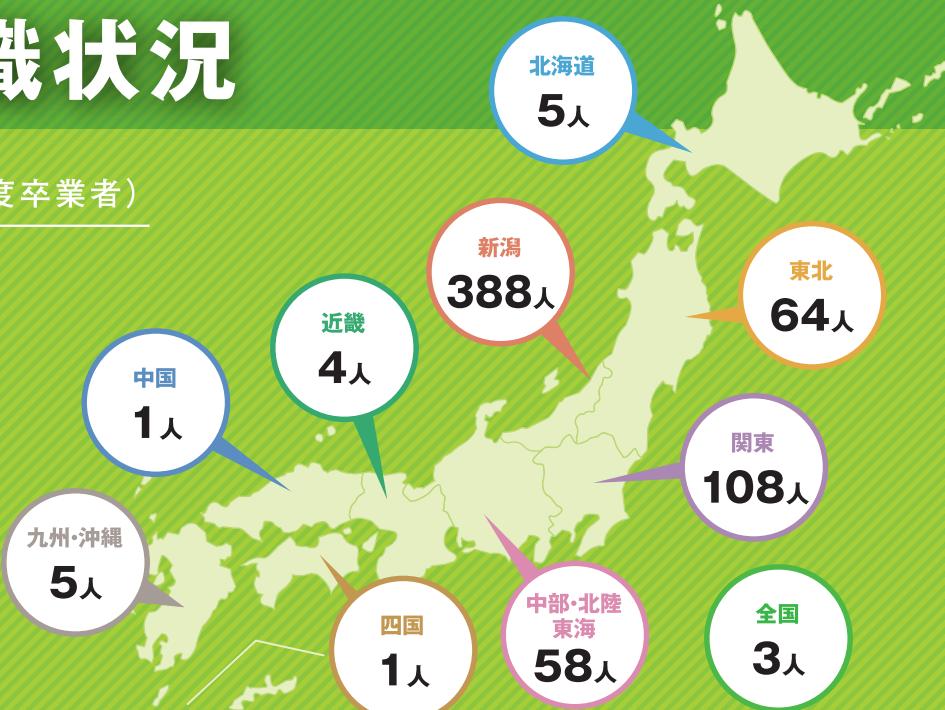
非侵襲的な

ひしんじゅうとき。非侵襲的とは、「生体を傷つけないような」という意味。皮膚の切開等の手術を伴わないことを指す。非侵襲的呼吸療法などが挙げられる。

卒業生の就職状況

地域別就職者 (平成25年度卒業者)

平成25年度生県別就職先					
都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	5	千葉	8	京都	2
青森	1	東京	48	大阪	2
岩手	1	神奈川	19	岡山	1
宮城	9	新潟	388	佐賀	1
秋田	6	富山	10	香川	1
山形	13	石川	9	福岡	1
福島	34	福井	3	熊本	1
茨城	7	山梨	3	鹿児島	2
栃木	3	長野	23	全国	3
群馬	8	岐阜	2		
埼玉	15	愛知	8		



1年間の活動報告

学友会会长 臨床技術学科3年 小林 弘樹



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

大学生活4年間での多くの出会いや勉学に励み将来の礎を築いた日々は、皆様の心に色濃く残る思い出になるのではないでしょうか。

また、日頃より学友会の活動に多大なご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。今年度も皆様のご協力により第4回桃迎会や第14回伍桃祭、スポーツフェスティバル、美化キャンペーン等様々な行事で大いに賑わいを見せて終えることができました。

今年度は第14回伍桃祭のテーマでもあります「Grow Up」ということで、学友会員一同、先輩方から受け継いだ伝統や熱い情熱を胸に抱き、全員が一丸となって活動をして参りました。今年で4回目となる桃迎会では昨年を上回る部活・サークルのステージ発表や相談ブースを設けることで、新入生やオープンキャンパスに来ていた高校生の方にも新潟医療福祉大学の楽しい雰囲気や活発に活動している部活・サークルの魅力を感じていただき、胸躍るイベントとなったことだと思います。また、伍桃祭でも伝統的なステージ発表やMs.&Mr.コンテストや出店グランプリに加え、子宮頸がん講演&検診を通じて医療系の大学にふさわしい大学祭を開催でき、例年以上に参加者や来場者の方々を含め楽しんでいただくことができたと思います。来年度も先輩方から受け継いだ伝統を重んじ、後輩達へ伝えています。

最後になりますが、学友会は学生と共に新潟医療福祉大学を盛り上げ、

より良い大学生活を送っていただくために活動をしていきます。これからもどうか学友会を応援していただければと思います。近くに来られた際には、是非お顔を見せていただきたいと思います。May this day be another beginning to many more successful ones ahead!



第14回伍桃祭(大学祭)報告

第14回伍桃祭実行委員長兼学友会副会長
理学療法学科2年 阿部 友弥



伍桃祭を終えて

今年の伍桃祭のテーマは、「Grow Up(成長)」でした。今年4月の視機能科学科新設に伴い、本学は全11学科となり、更なる“成長”を遂げました。また、伍桃祭の準備から開催、運営を通じて学生の意識や雰囲気にも変化が現れ、大学全体でより良い大学に“成長”したと感じます。これらのこととふまえると今回の伍桃祭は、テーマに沿って行えたと実感しています。

当日は、アーティストの「ケラケラ」を特別ゲストに迎えライブを開催し、来場者の方々が笑顔で帰る姿を見て、大変嬉しく思いました。そのほかに、クラブ・サークルによるパフォーマンス、模擬店など多くのイベントを通して、過去最多の方々にお越しいただきました。参加者全員が一体となって盛り上がることができ、伍桃祭を楽しく開催できたのではないかと思います。

最後になりましたが、無事に伍桃祭を終えることができたのも、地域の方々やご協賛いただいた企業様をはじめ、教職員の方々や参加してくれた学生の皆さんなど、多くの方々にご協力いただいたおかげです。そして、一緒に企画・運営をしてくれた学友会・伍桃祭実行委員に感謝します。ありがとうございました。



男子サッカー部

本学強化指定クラブ男子サッカー部所属の中田大貴選手(健康スポーツ学科4年)が、2015シーズンより、Jリーグ カターレ富山に新加入することが内定いたしました。今後の活躍が期待されます。



女子サッカー部

9月13日(土)～15日(月)新潟聖籠スポーツセンターにて「第36回 皇后杯全日本女子サッカー選手権北信越予選大会」が開催され、本学女子サッカー部が準優勝により、「皇后杯全日本女子サッカー選手権大会」の出場権を獲得しました。本大会では1回戦でスフィーダ世田谷FC(関東第3代表:東京)に2対6で敗れてしまいました。



硬式野球部

群馬・新潟地区予選順位
1位 上武大学 7勝0敗
2位 関東学園大学 6勝1敗
3位 新潟医療福祉大学 5勝2敗
4位 高崎経済大学 4勝3敗
5位 群馬大学 3勝4敗
6位 群馬パース大学 3勝4敗

7位 新潟大学 2勝5敗
8位 東京福祉大学 0勝7敗
この結果、第六代表決定戦に進出しましたが、常盤大学に敗れ決勝トーナメント進出はありませんでした。



陸上競技部

「第98回日本選手権リレー」が10月31(金)～11月2日(日)に日産スタジアムで開催され、長谷川→山崎→渡辺→福島のオーダーで、3分10秒80の好記録をマークし7位入賞を果たしました。2年連続の入賞となります。



女子バレーボール部

10月23日(木)～26日(日)に、福井市北体育馆にて行われました「第62回秋季北信越大学バレーボール選手権大会」で、準優勝し、第61回全日本バレーボール大学選手権大会の出場権を獲得しました。本大会の結果は2回戦敗退ベスト64でした。



水泳部

10月28日(火)および29日(水)に東京辰巳国際水泳競技場にて、FINA Swimming World Cup 2014 Tokyoが開催され、混合200mリレー(松井浩亮、今井恭太、山口紗季、佐藤綾)で4位入賞を果たしました。



FINA Marathon Swimming World Cup - Hong Kong 2014に本学から青木陽佑選手が出場しました。結果は32位でしたが、青木選手は初の国際大会にも関わらず外国人選手のアタックにも怯まずに1,2周目までは先頭集団で泳いで堂々と勇敢に泳いでいました。



ダンス部

12月23日(火)に新潟日報社のメディアシップにおいて行われた、「クリスマスダンスフェスティバル」に参加しました。



男子バスケットボール部

10月9日(木)～12日(日)の4日間、富山県総合体育センターを会場に開催されました「第48回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選」において、優勝を果たしました!(6年ぶり2回目)11月25日に東京都代々木体育館にて行われましたインカレでは、関東学院大学に76ー87と惜しくも敗れ、念願の1勝はありませんでした。



女子バスケットボール部

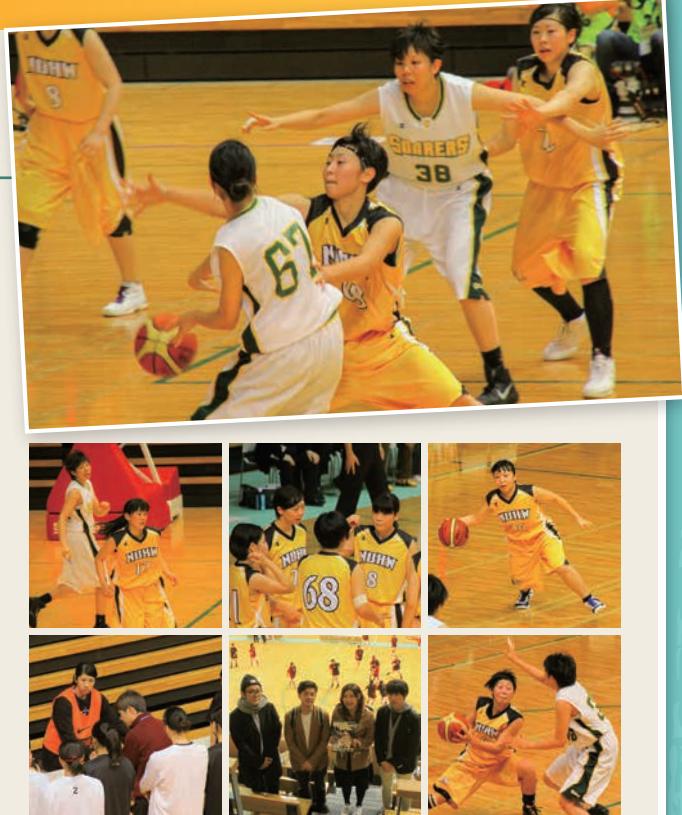
第66回全日本大学 バスケットボール選手権大会

2014年11月24日(月)東京都内4会場にて開催された第66回全日本大学バスケットボール選手権大会に同窓会から応援に行きました。本学強化クラブのバスケットボール部は、同大会の地区予選にて男女共に優勝を飾り、全国大会で初の1回戦突破に期待がかかる試合となりました。

本学の試合は、11月25日に大田区総合体育館で開催され、関東4位の専修大学との対戦となりました。応援席では、保護者の方々がオリジナルのTシャツと手ぬぐいを身につけながらの熱い応援と、バスケットボール部のOGや本学の教員・学生も多数応援に駆けつけました。

試合結果は、前半の得点差が響き、後半の追い上げ及ばず46ー64で敗れてしまいました。試合後、最後まで全力で戦った選手たちには大きな拍手が送られました。惜しくも男女共に全国大会での1勝は叶いませんでしたが、今後のさらなる活躍を期待しております。選手の皆さん、本当に疲れさまでした。応援に来ていた皆さんもお疲れさまでした。

また、今回の応援には、健康スポーツ学科の学生が企画運営を行う「NUHW sports magazine」の取材チームも同行し、2015年1月発行のトライアル第2号で、今回の試合について特集記事を組んでくれる予定です。本学の強化部クラブのさらなる発展に貢献してくれることを期待しております。



強化指定クラブ以外の長崎国体出場者紹介

今年の長崎国体は強化指定クラブ以外の選手も出場しましたのでご紹介します。

社会福祉学科2年 比企 麻里奈

①出場種目

空手道

②成績

2回戦敗退

③社会福祉学科で勉強しながら新潟県代表として競技をする大変さや やりがい等

私は小学校1年生から空手を続けており、高校でも空手を続け強くなるために、県外の高校へ進学しました。大学では、地元の道場で趣味

程度で続ける予定でしたが、負けず嫌いな私は国体を目指し、1年間本気で取り組みました。大学には空手道部がなく、地元の道場には専門的な指導をしてくださる先生もいなかったので、長岡まで練習に行ったり、自主練をしたりと、練習面では苦労しました。また、テストや実習もあり、練習時間が限られているなかで、勝てる喜びを味わうことがやりがいでした。

④将来の夢

私はSWとPSWの資格を取得し、その資格が生かせる仕事をしたいと思います。現在具体的な将来像があるわけではありませんが、MSWに興味を持っています。残り2年間で様々な知識を得て、何をしたいのか見極めていきたいと思います。

大学院

新潟医療福祉大学 医療福祉学研究科

第11期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして同窓生の皆さん、お元気ですか?大学院が設立され今年で11年目を迎えます。これまでに大学院で学んだ皆さんには、より高い専門知識を身につけ、それぞれの職場でさらにご活躍のことと思います。

本学大学院では、社会人の方も通学しやすい昼夜開講制に加え、長期履修制度、各種奨学金制度など、様々な面で皆さんの「学びたい」をサポートしています。キャリアアップを目指している方、研究に少しでも興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせください。

■修学をサポートする制度

- 本学卒業生は、**入学金半額(10万円)免除**
- 平日は18:10から授業スタート。土曜開講や集中講義もあります。
- 長期履修制度(修士:最長4年、博士後期:最長6年)
- 教育訓練給付金指定講座(長期履修は一部対象外)

■各種奨学金制度

- 大学院無利子貸与奨学金**
(学費の全額または半額を無利子で貸与)
- 修士課程学費減免特待生制度**
(2年間の合計減免金額 第一種:950,000~1,100,000円、
第二種:650,000~850,000円)
- 特別研究奨学金(卒業生対象、年間15~20万円を給付)
- 修学援助奨学金(2年時に15~20万円を給付)

*資料請求やお問い合わせは本学大学院入試事務室まで。 TEL:025-257-4455(代) FAX:025-257-4456 E-mail:grnyuusi@nuhw.ac.jp

同窓会ホームページのお知らせ

皆さん、同窓会ホームページをご覧になっていますか?

母校や同窓会の最新ニュースは日々更新しています。また、活躍している卒業生を紹介する「卒業生は今!」や、「心に届くいい話」は随時更新しています。是非、定期的にご覧ください。また、同窓生の方に役員が寄稿のお願いをしております。役員から依頼があった際は、ご協力をお願いいたします。



会員情報・住所変更届のお願い

住所・勤務先・氏名の変更などは、同窓会トップページの「会員情報・住所変更届出」から手続きをお願いいたします。

また、同窓会に関するご意見・お問い合わせ・投稿は、以下のアドレスよりお願いします。

E-mail: dosokai@nuhw.ac.jp

同窓会サイトについて(会員情報・住所変更届出)

<http://www.nuhw-dosokai.jp/>

編集後記 Hennsyu-kouki

11期生の皆さん卒業おめでとうございます。今年で同窓会も11年目を迎え、同窓生も11期生を加えると5,000名を超える人数となりました。連携総合セミに講師として同窓生を派遣したり、学科による同窓会の企画が出てきたりと今までにない取り組みが出てきました。

Facebookも活用したりしながらより多くの人とのつながりを大切にして、これらからの同窓会がより発展するように同窓会役員一同が取り組んでいきたいと思います。

新潟医療福祉大学同窓会
お問い合わせ先: 新潟医療福祉大学 事務局内 同窓会支援室
●新潟市北区島見町1398番地
●メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp
●電話番号 025-257-4455